

KODOMOラムサールin南三陸町の開催

志津川湾がラムサール条約湿地に登録されたことを記念して、平成31年2月9日(土)から11日(月・祝)まで「KODOMOラムサールin南三陸町」を開催します。

KODOMOラムサールとは、全国のラムサール条約湿地で活動する子どもたちが集まり、湿地をテーマにさまざまな交流・学習のイベントを行う環境教育プログラムのことです。これまで、日本各地のラムサール条約湿地で開催されてきました。各地の湿地の情報を交換したり、自然や文化を学び、体験するプログラムを通して、開催地の良いところや魅力＝「宝」を見つけていきます。

KODOMOラムサールin南三陸町では、町の子どもたちと全国の湿地で活動する子どもたちが一緒に、南三陸町の魅力が詰まったプログラムを体験します。町内の子どもたちが全国各地で活動する子どもたちからさまざまな刺激を受け、幅広い視野を持つとともに、自分たちの住む町の自然の素晴らしさを実感する貴重な経験となるはずですよ。

町では、KODOMOラムサールの開催に向けて、今年の7月26日(木)に「KODOMOラムサール夏休みイベント」を実施しました。町内の子どもたちが実際に漁船に乗り、定置網の網揚げや魚拓体験、捕った魚の試食などを通して五感で南三陸町の自然を体験しました。11月には、イベント第2段として南三陸町の秋の味覚「サケ」をテーマにした「KODOMOラムサール秋イベント」を実施します。

KODOMOラムサールと併せて、環境に関心のある小学生の皆さんの参加をお待ちしています。



(写真上下)KODOMOラムサール湿地交流in荒尾干潟の様子



KODOMOラムサール夏休みイベントの様子

KODOMOラムサール秋イベント

開催日：11月23日(金・祝)

KODOMOラムサールin 南三陸町

開催日：平成31年2月9日(土)～11日(月・祝)【2泊3日】

参加対象：環境に関心のある小学4～6年生

農林水産課水産産業振興係 ☎46-1378 / F A X 46-5348

なお、KODOMOラムサールや秋イベントについての詳細は、後日町内の各小学校を通じてお知らせするとともに、町のホームページでも情報を掲載します。

これからの活動



ラムサール条約は、湿地を守ることだけが目的ではありません。湿地を賢く利用し、交流・学習に役立てることによって、これまで以上に自然と手を取り合って暮らしていく＝「共生」していくことが大切な目標となります。「森里海ひといのちめぐるまち南三陸」という南三陸町の将来像へ向けて、強く後押しする強い味方になるはずですよ。

志津川湾の豊かな恵みを未来の世代に残していくために、私たちに何ができるのか、地域全体で考え、行動していくことが求められます。

画像提供 ※1：青木優和 イラスト：浜口とり



漁師 高橋 直哉さん

南三陸の海の豊かさが世界に認められたことはうれしいですね。あらためて志津川湾の特徴が素晴らしいんだと感じています。

現在、養殖業の傍らホタテ・ホヤ・ワカメの漁業体験を行っています。漁業体験や釣りはどこでもできますが、その中で南三陸町を選んでもらうためには特徴を生かした付加価値が必要です。今回の登録によって藻場の豊かさが証明されました。藻場が豊かであれば、そこが魚たちの産卵場所になります。小魚が生まれ、その周りには小魚を食べる大きな生き物たちも集まってきます。また、藻場が豊かであれば海藻を食べるウニやアワビなどもおいしくなります。こういった良い環境が繁殖している海産物にも影響してくるので、世界に認められた場所で育った海産物をPRするとともに、観光にもつなげていきたいですね。



宮城県漁業協同組合志津川支所青年部 部長 佐藤 一弥さん

ラムサール条約登録って聞いても実際はピンときていないんですよ。漁師仲間にも聞いたが、「あっ、そうなの!？」っていうくらい実際は分かっているじゃないですか。私たちが漁協青年部が行っているウニの駆除活動や磯焼け調査とかが実になって、評価されたのだと思っています。その手助けになったことは、正直うれしく思います。

今後は、このラムサール条約登録を受けて、部員たちがウニの駆除活動や磯焼け調査に対するモチベーションが上がるようにしていきたいです。あと、私はワカメの養殖をやっているのですが、ラムサール条約登録地「志津川湾」で採れたワカメやカキ、ホヤ、ギンザケといった魚介類を世間の人たちに知ってほしいですね。



志津川高校自然科学部 元部長 渡辺 柗真さん

自分が住んでいる地域の自然が世界に認められてうれしく思います。

私たちの部は、干潟の生物調査をメインで行っています。昨年は松原干潟で約70種類の生物を発見しました。中にはレッドリストの生物も10種類以上発見されました。今年は八幡川と松原干潟の調査を実施。南三陸町は、よその干潟と比較しても多くの生物が生息しており、自然豊かな町だということが分かりました。

今後は、生物調査の継続とともに、これまで2回だった調査を、季節ごとの調査であったり、数か月おきの調査を実施していきたいです。また、町内に干潟は数カ所ありますが、これらの干潟の調査を行い、松原干潟と他の干潟では生息している生物に差があるのか、比較をしていきたいです。

皆さんの喜びの声



南三陸ネイチャーセンター友の会 会長 鈴木 卓也さん

県内で最初にラムサールに登録されたのは、伊豆沼・内沼です。1985年、私が中学2年生のときでした。そこから30年が経過し、志津川湾が伊豆沼・内沼と肩を並べたというのは感慨深いですね。この町には小学生・中学生を対象にした志津川愛鳥会があって、私も所属しています。愛鳥会は昭和20年代から活動してきた団体で、そういった団体活動の積み重ねがあったのが登録要因の一つだと思っています。

今後は、産業分野で生かしていくことも大事ですし、教育や自然体験で生かすことも大事です。私たちの会では毎年夏に「子ども自然史ワークショップ」をやっています。そういったところで、志津川湾の価値とか魅力とかを広めていくための宣伝役を担ってほしいと思います。



一般社団法人サステナビリティセンター 代表理事 太 齋 彰 浩さん

志津川湾が国際的に価値ある場所だと客観的に評価されたことは、大きい。自分の町に誇りが持てる一つになると思います。世界から注目されるので、これまでは漠然と海(志津川湾)であったのが、藻場やコクガンという対象があるから絞りがやすくなる。絞らないと環境の変化って捉えられないので、これまでの取り組みを継続する契機になると思います。

私は、南三陸の森里海ひとを題材として、持続可能な社会の実現に向けた次世代リーダーの養成プログラムを提供していますが、南三陸の価値を打ち出すことでそれを目指して来る人が出てくるはずなので、そういう人たちの下に、今回の登録はなると思います。今後は、循環型の取り組みとか人間と海との関係を学ぶ場所として、南三陸を打ち出してほしいですね。



かもめの虹色会議 主宰 工藤 真弓さん

志津川湾がラムサール条約湿地潜在候補地に選ばれていることを震災後に知ってから志津川湾の魅力を生かすようなまちづくりをしたいと思ってきたので、いよいよ認められたという思いがあります。また、海の中には、私たちが知らない豊かさが広がっていて、それらをつつと宝探しするように明らかにしながら、学び合っている場面にきたのかなという思いです。

私たちの会では、町民憲章に書かれている自然の豊かさをアートにするというコンクールを通して、色んな人たちが気軽にまちづくりに参加できるようなきっかけ作りをしています。今後は、ラムサール条約を小学生や中学生など、各世代に合わせて分かりやすく伝える場を作りたいですね。あと、登録されたことで、海が使いやすくなると思っている人がいるので、「そうではないですよ」と教えていかないとだめですね。